

## 船舶事故調査報告書

平成26年1月9日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 庄 司 邦 昭  
 委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成24年8月25日（土） 13時15分ごろ
発生場所	広島県呉市上蒲刈島東方沖 <small>かみかまがり</small> 呉市所在の蒲刈荷島灯台から真方位252° 130m付近 （概位 北緯34° 11.5′ 東経132° 45.6′）
事故調査の経過	平成24年9月19日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	モーターボート <small>ほくとせい</small> 北斗星、3.0トン 270-47111 広島、株式会社沖田 9.16m (Lr) × 2.50m × 0.79m、FRP ディーゼル機関、214kW、平成23年7月
乗組員等に関する情報	船長 男性 62歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成23年5月30日 免許証交付日 平成23年5月30日 （平成28年5月29日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	舵、プロペラ及びプロペラ軸が曲損
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者3人を乗せ、船首約0.3m、船尾約1.2mの喫水により、約8ノットの対地速力で上蒲刈島東方沖を北西進中、船長が、操縦席に座って手動操舵を行い、蒲刈荷島灯台と上蒲刈島の間を通過しようとしたところ、平成24年8月25日13時15分ごろ衝撃を受けて停止した。 船長は、本事故後、水深が約0.7～0.8mであり、本船が干出浜（岩）に乗り揚げていることを確認した。 船長は、最新の海図によって航行予定海域の水路調査を行っておらず、蒲刈荷島灯台と上蒲刈島の間干出浜（岩）が拡張していることを知らなかった。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東、風力 2、視界 良好 海象：潮汐 上げ潮の中央期
その他の事項	船長は、これまで蒲刈荷島灯台の沖を2～3回航行した経験があっ

	<p>たが、蒲刈荷島灯台と上蒲刈島の間を航行したのは初めてであった。</p> <p>船長は、GPSプロッターを50mレンジとして表示させていたので、水深や浅瀬などは分からなかった。</p> <p>船長が、本事故当時使用していた海図によれば、本事故発生場所付近の水深は1.8mである。</p> <p>平成23年6月2日刊行の海図W141によれば、蒲刈荷島灯台と上蒲刈島の間には干出浜（岩）が拡張している。</p>
<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、上蒲刈島東方沖を北西進中、船長が蒲刈荷島灯台と上蒲刈島の間には干出浜（岩）が拡張していることを知らなかったことから、蒲刈荷島灯台と上蒲刈島の間には拡張する干出浜（岩）に向けて航行することとなり、干出浜（岩）に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、最新の海図によって航行予定海域の水路調査を行っておらず、また、GPSプロッターを50mレンジとして表示させており、水深や浅瀬などは表示されていなかったことから、蒲刈荷島灯台と上蒲刈島の間には干出浜（岩）が拡張していることを知らなかったものと考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、本船が、上蒲刈島東方沖を北西進中、船長が蒲刈荷島灯台と上蒲刈島の間には干出浜（岩）が拡張していることを知らなかったため、蒲刈荷島灯台と上蒲刈島の間には拡張する干出浜（岩）に向けて航行することとなり、干出浜（岩）に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
<p><b>参考</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の情報により、海図やGPSプロッター等で航行予定海域の水路調査を行い、適切な針路を選定すること。</li> <li>・GPSプロッターを使用するときは、航行海域の状況に応じて適切な表示範囲に切り替えること。</li> </ul>